

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算

支出科目 款：労働費 項：労政費 目：雇用促進費

事業名 プロフェッショナル人材センター運営事業費（任意）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 産業人材課 人材確保係 電話番号：058-272-1111(内3292)

E-mail：c11369@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 94,580 千円 (前年度予算額：94,500 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	94,500	62,484	0	0	0	0	0	0	32,016
要求額	94,580	62,492	0	0	0	0	0	0	32,088
決定額	94,580	62,492	0	0	0	0	0	0	32,088

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

県内に新たに安定した質の高い雇用を生み出すためには、地域を支える企業が新たな事業課題に取り組み、新たな取引先や市場開拓を積極的に実施する必要がある。そのため、企業に眠る未活用の技術やノウハウ等、様々な潜在的可能性のある資源を積極的に掘り起し、経営体質の強化を含め、新たな取り組みに積極的にチャレンジする「攻めの経営」への転換を促進しなければならない。

(2) 事業内容

潜在的な成長可能性を有する企業経営者に対して、経営改善への意欲の喚起、また、経営改善をサポートする「プロフェッショナル人材」の採用支援や、副業・兼業による対応を含めた企業課題の解決などを行う「プロフェッショナル人材戦略拠点」を設置し、企業を訪問して支援を行う「プロフェッショナル人材戦略マネージャー」等を配置する。

人材ニーズを丁寧に掘り起こし、相談案件へのよりきめ細やかなフォローアップを実施するため、「プロフェッショナル人材サテライト拠点」を設置し、「プロフェッショナル人材戦略地域サブマネージャー」を配置する。

【拠点の概要】

- ・開設：平成27年12月
 - ・人員：7名 マネージャー1名（兼務）、統括サブマネージャー1名、サブマネージャー2名
サテライト拠点調整サブマネージャー1名
アシスタント1名、雇員1名
 - ・営業：月曜～金曜（9：00～17：00）
- ※ 祝日・年末年始除く

【サテライト拠点の概要】

- ・ 人員：県内金融機関から地域サブマネージャーを選出
- ・ 営業：それぞれの地域で週2日程度プロフェッショナル人材業務に従事

【業務内容】

- ① 企業への定期訪問による人材ニーズの掘り起し
- ② 人材ニーズの取り繋ぎ
- ③ 企業及び人材へのフォローアップ
- ④ 経営改善啓発セミナー等の開催
- ⑤ 関係人口、働き方改革、地域商社、DMO、大企業連携といった新たな形態での人材支援
- ⑥ プロフェッショナル人材戦略協議会の運営

(3) 県負担・補助率の考え方

国庫負担 1 / 2 以内 [地方創生推進交付金]

国庫負担 10 / 10

(H31年度比拡充する人件費に係る費用) [地方創生推進交付金]

(4) 類似事業の有無 無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	216	業務旅費
需用費	106	消耗品費
役員費	72	通信料
委託料	94,126	拠点運営費
使用料	60	会議室使用料
合計	94,580	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

県

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略

3 (2) ①産業を支える人材の育成・確保

プロフェッショナル人材受入に関するセミナーや企業訪問等を実施するとともに、受入時の経費を支援し、成長が見込まれる県内企業の経営改善を促進する。

- ・岐阜県成長・雇用戦略2017

[1] (1) 企業の人材確保支援

県外からの即戦力となる人材の確保支援・助成

国

- ・まち・ひと・しごと創生基本方針2021

各道府県の「プロフェッショナル人材戦略拠点」と地域金融機関との連携強化を通じて、信用金庫、信用組合等の取引先企業への支援対象を拡大するとともに、地域金融機関と人材マッチングに関するノウハウを共有し、地域におけるプロフェッショナル人材市場の整備を進める。

(2) 国・他県の状況

- ・国が設置するプロフェッショナル人材戦略全国事務局と連携して実施
 - ・東京都と沖縄を除く、45道府県に「プロフェッショナル人材戦略拠点」を設置
- 済

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 県内企業を訪問し、「攻めの経営」への転換意欲を高め、経営改善を行うための「プロフェッショナル人材」の活用を促進する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R4年度)	達成率
①プロフェッショナル人材の県内企業への就業件数	/	204件	190件	190件	570件 ※R2～R4 累計目標	36%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	企業を巡回・訪問して経営や人材獲得に関する相談に対応すると共に、企業経営者向けに意識啓発セミナーを実施した。 ・人材成約数 204件 ・新規訪問件数 367件 ・セミナー開催件数 4回
令和 3 年度	令和5年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和 4 年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 3	企業の成長による県経済の活性化を図るためには、県内企業の経営改善の意欲を高め、プロフェッショナル人材の活用を促進する必要がある、事業の必要性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 3	企業相談数は目標を上回っており、企業からの相談に対するニーズは高い。成約件数も着実に件数を積み重ねており、企業の高度人材の確保に有効な事業だと考えられる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 2	企業訪問時には、特定地域の企業をまとめて訪問する等、効率的な事業執行に努めている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 本事業を進めていくうえでは、企業と繋がりのある県内金融機関や、プロフェッショナル人材の人材情報を有する民間人材紹介事業者との連携が不可欠となる。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県では2020年から22年の3年間で570件という新たな目標を立てており、引き続き、拠点機能を拡充して、プロフェッショナル人材の獲得に取り組んでいく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	
補助事業者 (団体)	(理由)
補助事業の概要	(目的) (内容)
補助率・補助単価等	定額・定率・その他 (例：人件費相当額) (内容) (理由)
補助効果	
終期の設定	終期〇〇年度 (理由)

(事業目標)

・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

補助金交付実績 (単位：千円)	H30年度	R元年度	R2年度

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	<ul style="list-style-type: none">取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none">事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none">事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none">事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none">事業が直面する課題や改善が必要な事項
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none">継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
